

本書の掲載内容に下記の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

訂正箇所	誤	正
P.22 【問題 5】	(2) 第 2 類の危険物は、 いずれも比重は 1 より大きく 、酸化剤との接触または混合により発火、爆発するおそれがある。	(2) 第 2 類の危険物は、 比重が 1 より大きいものが多く 、酸化剤との接触または混合により発火、爆発するおそれがある。
P.41 (1)	(1) 塩素酸 (HClO_4) . . .	(1) 塩素酸 (HClO_3) . . .
P.47 問題 3 解説	B なお、漂白剤のほか、両者とも 花火やマッチ等の原料にもなっています 。	B 誤り。塩素酸カリウムのみが該当します 。
P.47 問題 3 解説の最下行	従って、正しいのは、 B, C, D の 3 つ になります。	従って、正しいのは、C, D の 2 つ になります。
P.48 下蘭 問題 3 の 解答	(3)	(2)
P.55 問題 17 選択肢 B	酸と接触すると、 酸素 を発生し分解する。	酸と接触すると、 過酸化水素 を発生し分解する。
P.56 問題 18 (2)	. . . 少量の二酸化 炭 素を発生する . . .	. . . 少量の二酸化 塩 素を発生する . . .
P.114 問題 39 (2)	. . . 塗料用石灰 等を . . .	. . . 可塑剤 等を . . .
P.175 問題 54 C	炭化カルシウム 粉末消火剤	炭化カルシウム 粉末消火剤(炭酸水素塩類)
P.177 下から 4 行目 ②	消火粉末剤が有効なもの：	消火粉末剤(炭酸水素塩類)が有効なもの：
P.198 (1) ピクリン酸	3. 水には溶けないが、熱湯やアルコール、ジエチルエーテルに溶ける。	3. 水や熱湯、アルコール、ジエチルエーテルに溶ける。
P.202 下から 3 行目	このペアになっていない 原子 (不對電子)	このペアになっていない 電子 (不對電子)
P.234 問題 60 解説	ほとんどの第 5 類危険物は水には溶けませんが、B の	ほとんどの第 5 類危険物は水には溶けませんが、 A のピクリン酸 , B の
P.235 問題 60 解答	(3)	(4)
P.252 五フッ化ヨウ素の比重	2.30	3.20
P.254 1 行目	3. . . . 石油、ベン ジ ンなどには溶けない。	3. . . . 石油、ベン ゼ ンなどには溶けない。
P.259 (問題 7) 解説を右のように変更します。	二酸化炭素から木片までの 4 つの物質と リン化水素 は、いずれも 可燃物 であり、過塩素酸と接触すると、発火または爆発する危険性があります。従って、発火または爆発する危険性のないものは残りの 希硫酸 と二酸化炭素の 2 つ になります。	
P.260 【問題 7】解答	(3)	(2)
P.267 問題 21 解説 下から 4 行目	るときは自身が 還元 されて酸素を発生します。	るときは自身が 酸化 されて酸素を発生します。